

[令和2年度納涼セミナー結果]

現況下、閉塞感も感じる中で、心の安らぎも得た講演でした!

「経営活動に効く仏教の教え」と題して、中下大樹氏をゲストに開催致しました。

With コロナの環境下、経営者の方々は日常の経営活動に加え感染対策を講じながら経営を行い、ともすれば閉塞感も感じる中で真夏の夜のひと時、心の安らぎを感じつつ意義ある講演会にとの考えで、8月28日(金)17時より、HOTEL THE KNOT YOKOHAMAにおいて、34名の出席で、ゲストに真宗大谷派祐光寺僧侶、早稲田大学講師、中下大樹氏をお招きし開催致しました。



講演では、母子家庭で生まれ育ち、中学を卒業後、働きながら高校・大学・大学院・大谷専修学院にて僧籍(浄土真宗)となり、緩和ケア病棟にて末期がん患者数百名の看取りに従事され、早稲田大学等で教鞭をとりつつ、様々な社会問題、葬送支援の現場にも関わられ、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地、また、直近では熊本の被災地等、人間の生と死の現場に一貫して関わり、国への政策提言等も続けておられることから、その実体験に基づくお話は、感銘を受けると共に、安らぎも得た貴重なひと時でした。(以下、講演の要旨です)

17時、木通和摩事業部員(写真右上)の司会で始まり、加藤卓郎会長より「今日は、大変お久しぶりでございまして、2月からしますと半年を超え、お会いする機会も殆どございませんでしたが、こればかりは安全を第一義に考えまして、企画をしたり、変更をしたりしながら今日に至りましたが、皆様方にはご心配もおかけいたしました。



実は、朝食会をはじめ、山口事業部長及び事務局と何度も打ち合わせを致しまして、ようやく今回の納涼セミナーにつきました。形を変えてセミナーを重視した形で、コロナ感染の時期に我々が考えるべきことにテーマを絞って開催することと致しました。現況はまだまだ続くと思われまますので、本日の講演を生かしていただければ幸いです。

当会と致しましても、情報の発信ができるよう努力し、引き続き皆様方のお役に立てる会として頑張ってまいりますので、よろしく願いいたします」と挨拶されました。(以下、講演の一部です)

(挨拶する加藤卓郎会長)

家が貧しく、中学までは何とかいきましたが、貧しく、高校大学は住込みで新聞配達をしながらいき、たまたま縁あって大学院まで進むことができました!

改めまして中下と申します。まだまだ未熟ものですが普通のお坊さんと異なった特殊な経歴をしていると良く言われております。私は、元々お坊さんになった訳ではなく、縁あってお坊さんになりました。



(講師 中下大樹氏)

家が貧しく、中学までは何とかいきましたが、貧しく、高校大学は住込みで新聞配達をしながらいきました。

たまたま縁あって大学院まで進むことができました。その時、お坊さんと出会いまして「君は面白い、命の事を考えるならお坊さんになれば」と言われ、京都の東本願寺に1年間行って修行をしました。

住職の資格を頂きお寺に入る予定でしたが、お寺の世界は決して良い世界ではないので、私はせっかくこういう世界に入ったので、人が本当に苦しんでおられる方、悲しんでいらっしゃる方のお役に立ちたいと、緩和ケアの施設に就職しました。

大学院を出て学者になる予定でしたが、ホスピス緩和ケアという所で働きました。その最たるものが癌という病気で国民の二人に一人が癌でなくなるのも事実です。私は、看取りに900人位の人に立ち会ってきました。

「朝(あした)に道を聞かば夕べに死すとも可なり」

皆さん、仏教には諸行無常(しょぎょうむじょう)という言葉があります。そして、諸法無我、自分というものは、生きていくことは苦しいことなのだという事、そして、生まれて、歳を取って死んでいくことは、我々逃れられない。つまり仏教の教えというのは、自分自身が苦しい道でも生きていこう、この道で生きていくんだという覚悟を教えてくださいませんか。

私は、孔子の論語が好きなんです。「朝(あした)に道(みち)を聞(き)かば夕(ゆう)べに死(し)すとも可(か)なり」、つまり私たちは生きていくうえで試行錯誤しながら、でも、自分が気づいた時に、自分が夕方に死んでも自分は後悔しない、自分は精一杯生きたという事を教えてくださいませんか。

自分は精一杯生きた、自分に悔いはないと言えるでしょうか皆さん、未練がありますか!

自分は精一杯生きた、自分に悔いはないと言えるでしょうか。皆さん未練がありますか。娑婆に未練がありますか。頭ではそう思ってもなかなか難しいものですね。

私は、被災地支援なども行っています。その中で、こんなこともありました。ある小さな会社を経営なさっていた社長さんが津波で亡くなってしまったんですね。従業員を避難させて、障害を持っている方をおんぶして避難させた時に、津波が来て亡くなりました。それを助かった方たちが上から見てたんですね。

そして、その遺体が運ばれてきました安置所に。友達の警察官が泣き崩れたんですね、そして最後のお別れをする時に「〇〇また会おうな」と絶叫したんです。僕は胸がいっぱいになって涙が止まりませんでした。皆さん今日この場で別れるときに「また会おう」と言うのとは違いますよね。

職場のスタッフや従業員みんなが言うんですよ「社長みたいな生き方がしたいです、尊敬しています、心から」と言うんですよ。従業員の人は社長みたいな生き方がしたい、ああいう生き方がしたい、社長を尊敬しますと。

人は非常事態、コロナの場合も、極限の状態の時に本質が問われると思います!

何を言いたいのか、人は非常事態、コロナの場合もそうですが、非日常時に本質が問われるのではないかと思います。こういう極限状態の時は人間の本質が炙り出されるのではないかと思います。ですから、私はいつも言うんですよ。

例えば、みな様、経営者である前に、一人の父親であり、母親であると思うんですよ。その中で、今で出来ないことは、その時にもできないです。

地震が起きたら家族で、職場でこういうふうに避難しよう、頭の中でシュミレーションして、且つ実際にやってみて、そのとおり動けるのであれば、そういう事態が起きたときも真っ先に動けると思います。しかし考えた事もない、やったこともないでは、その時には動けません。





皆様方はどういう生き方をしたいのですか。経営者である皆様方は立派な経営者であると思うんです。皆さんの一挙手一投足は周りの方から見られている、若い人からも見られています。

それは、日ごろの行いなんです。今日出来ないことは明日もできない。私たちは、どういう締めくくりの人生を終えたいのか、考えることが生きることに繋がっているんです。

私たちはどう生きていくのか、それは自分の人生を、より高めるのかと同時に、どう決着をつけるのか、それが残された方々に影響を及ぼすのです。

皆様は、それぞれの組織の中でリーダーです。皆様方の行動、志しや姿勢が「ああいうふうになりたいね」と言われるようすべきです。

人は極限状態でも他者を思いやれる心を持っているんですね!

今年の7月にも炊き出しをやりました。その時に凄いなと思う人もいました。炊き出しをしますと、真っ先に食べる人も見てきましたが「私は最後でいいです、一番最後でいいです」と言う人も見てきました。物資が運ばれてきたとき、ものを奪っても食べたいじゃないですか。被災地で銀行のATMで盗む人、コンビニを襲う人を見てきました。人間というのはそういうものだと思います。

生きていくことは苦しいことなんだ、痛みがあるということは、生きているからこそ味わえることだと思うんですね。臨床の現場で、自分は精一杯生きたという人は100人の中でどれくらいだと思いますか。我が生涯に悔いなしと心から言える人が何人くらいいると思いますか。あくまでも私の判断ですが、片手で数えられるか位だと思うんですね。1000人くらい関わってそれくらいの人です。

トップとして、どう生きて、どう最後を終えていくかが一番大事なんです!

私も、経営者向けに「リーダーシップ」という研修の講師をやらせて頂いておりますが、その時に一番言われるのは、経営者としてどうあるべきかはもちろんですが、トップとして、どう生きてどう最後を終えていくかが一番大事なんだと話しています。

仏教にもありますけれども、人との出会いによって、変わって深みが増していくものだと思います。

どう生きるのか、どういう姿を次の世代に残していくのか、その覚悟が問われています!

生きているという事、食事ができるという事、当たり前ではないんですね。貴重なものなんですよ。私たちはいつの間にか当たり前に思っていますが、その事を今回のコロナを通して、私たちは、本質的に深めていくと、これが当たり前ではないんだと気づくと思うんです。

私たちはどう生きていくのか、どういう姿を次の世代に残していくのか、その覚悟が問われているのではないかと思います。

私は、恥ずかしながらこういう生き方をしてきましたので、自分のテーマとして、人の死というものに向き合いつつ、自分はどう生きていくか、自分命をどう使っていけばいいのか、を考えています。



命の漢字の前に使うとかいて使命と言いますが、残された命をどう使っていくのかを使命と言うんですね。私は、自分の使命としては、自分の死というものを考える中で、悲しみ苦しみを通して様々な問題に向き合っていきたいと考えています。

皆さんの使命は何ですか。ご家族との幸せ。会社の幸せ。社会貢献ですか。それぞれの幸せがあると思います。どういう命を使っていくのですか。

その事から初めて使命という言葉が生きてくるのだと思います。過去は変えられませんが、未来と自分を変えられるんですよ。それには、覚悟と痛みが伴います。とお話しいただきました。

しみじみと感じさせて頂いた講演でした。ありがとうございました!

閉会の言葉を、山口喜久雄事業部長より(写真右下端)「皆様ご講演如何だったでしょうか。今日の講演を拝聴させて頂き、色々な事、人生観、死生観など、私はまだ、死生観まではいっておりませんが、お話を伺い一生懸命生きていかなければと、しみじみと感じさせて頂いた講演でした。ありがとうございました。」と述べられ、半年ぶりに顔を合わせた講演会も、皆さん、また会える日を楽しみにしながらのお開きとなりました



「ありがとうございました楽しい時間を過ごしたことで、

気持ちも前向きになりました!」

セミナーの開催に当たりましたは、色々ご苦労さまでした。公演の内容も、コロナという今、我々がもう一度振り返って見考えて見るテーマだと思いました。

朝食会は難しいと思いますが、このようなセミナーの形でも良いのではないかと思います。費用は徴収しても、朝の通勤を避けたい。夕方の時間も私くしにとっては良かったと思います。

出かけるときには、ためらいもあった私ですが、久さしぶりに、横浜で、そして皆様方とお会いいたしまして、楽しい時間を過ごさせていただいた一時間でした。

楽しい時間を過ごしたことで、気持ちも前向きになりました。会員に、楽しい企画を届けて戴いていただければ幸いです。

また、お会いできる日をたのしみしております。

「一聴講者より」